

年度 2008 学期 前期	曜日・校時	水 2	必修選択	選択	単位数	2
授業科目/(英語名)	社会と歴史(日本の水産資源利用) Society and History (Fisheries Resource Use in Japan)					
対象年次	1・2年次	講義形態	講義	教室		
対象学生(クラス等)	全学部		科目分類	人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー	担当教員: 亀田 和彦 / 研究室: 水産学部新々館 2 階 / TEL: 水産学部 2807 / オフィスアワー: 金曜日 16:00-17:00					
担当教員(オムニバス科目等)						
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500 文字)						
<p>授業のねらい:</p> <p>日本の水産業から海洋生物資源の利用に注目し、その特徴や教訓を知ることがこの授業のねらいです。</p> <p>授業方法:</p> <p>講義形式で、必要に応じてビジュアルな装置を使います。</p> <p>授業到達目標:</p> <p>(1)海と私たちの社会との関わりかた、(2)海の生き物を経済利用すること、(3)「資源管理」という考え方、の3点を理解して、(4)海洋生物資源の適切な管理による共存について適切な意見を述べるようになる。</p>						
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300 文字)						
<p>授業内容(概要): 「海」に関わることで形作られてきた人々の暮らし、社会、経済活動のありかただけでなく、生物資源とのつきあい方の変化を見ます。このことは、人類社会が海の生物資源と共存する仕組みを考えるにはとても良い素材であることを理解して、授業に参加してください。</p> <p>第1回 1. 海と私たちの社会</p> <p>第2回 1-1 航海(植民地経営、通商)</p> <p>第3回 1-2 漁業(食料確保、地先水面管理)</p> <p>第4回 1-3 地先管理と海洋制度</p> <p>第5回 1-4 社会の「約束事」が持つ意味</p> <p>第6回 2. 海の生き物を利用すること</p> <p>第7回 2-1 水産資源ということ</p> <p>第8回 2-2 本来的に必要な「バランス」</p> <p>第9回 2-3 生物資源との共存</p> <p>第10回 3. 資源管理</p> <p>第11回 3-1 これまでの経済活動と再生可能資源</p> <p>第12回 3-3 経済活動と人類社会の繁栄</p> <p>第13回 3-4 減らさない努力、増やす努力、その責任</p> <p>第14回 4. 地球規模の課題 その1</p> <p>第15回 4. 地球規模の課題 その2</p> <p>授業内容(追記): 定期的にレポートの提出を求めます。提出の方法については、授業中に説明します。</p>						
キーワード	水産業、資源管理、生物資源、共存					
教科書・教材・参考書	教科書は使わない。必要に応じて、教材として関連資料を提示する。					
成績評価の方法・基準等	定期試験(70%)とレポートを含む積極的な授業参加状況(30%)による成績評価を行う。評価基準は、資源管理、生物資源の特性、資源との共存に関する基本的知識を得て適切な理解を示せば合格(60点)とする。					
受講要件(履修条件)						
本科目の位置づけ/学習・教育目標	関係する専門科目: 環境政策、環境経済、環境社会、漁業制度、国連海洋法条約などに関するもの					
備考(準備学習等)	定期的にレポートの提出を求める(授業中に指示する)ので、これを予習や復習の機会にあてていただいてもかまいません。					